

見直しによりリストから除外された種

	科名	種名	学名	国リスト	県リスト 見直し前	除外理由
1	ハナヤスリ科	コハナヤスリ	<i>Ophioglossum petiolatum</i> Hook. × <i>O. thermale</i> Kom.		I	雑種は原則対象外とした
2	ラン科	キイムヨウラン	<i>Lecanorchis hokurikuensis</i> Masam. f. <i>kiiensis</i> (Murata) Seriz.		I	ホクリクムヨウラン（絶滅危惧II類）に含めて記載
3	ラン科	マイサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> Rchb.f. subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>macrocentron</i> (Franch. et Sav.) Ohwi		I	ヤマサギソウ（準絶滅危惧）に含めて記載
4	ラン科	ハシナガヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> Rchb.f. subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>mandarinorum</i>		I	ヤマサギソウ（準絶滅危惧）に含めて記載
5	ガマ科	ミクリ	<i>Sparganium stoloniferum</i> (Graebn.) Buch.-Ham. ex Juz.	準	I	変種オオミクリ（絶滅危惧II類）として記載
6	イグサ科	ヒロハノコウガイゼキショウ	<i>Juncus diastrophanthus</i> Buchenau		I	産地・個体数が多く確認され、絶滅のおそれは低いと判断
7	バラ科	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i> Th. Wolf	II	I	県内分布個体は移入起源と判断
8	スミレ科	ウスバスミレ	<i>Viola blandiformis</i> Nakai		I	生息状況が安定しており、絶滅のおそれは低いと判断
9	アカネ科	ジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i> Siebold ex Miq.		I	品種であったナガバジュズネノキ（絶滅危惧II類）は別種として記載
10	シソ科	ツルカコソウ	<i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe et Tatew.	II	I	県内分布証拠標本なし
11	キク科	オニアザミ	<i>Cirsium nipponense</i> (Nakai) Koidz.		I	県内分布証拠標本なし
12	キク科	オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> L. subsp. <i>sibiricum</i> (Patrin ex Widder) Greuter	II	I	県内分布証拠標本なし
13	キク科	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i> (H.Lév.) Springate	I B	I	県内分布証拠標本なし
14	キク科	カワラニガナ	<i>Ixeris tamagawaensis</i> (Makino) Kitam.	準	I	県内分布証拠標本なし
15	ヒメシダ科	ツクシヤワラシダ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa var. <i>nemoralis</i> (Ching) Sa.Kurata		II	ヨコグラヒメワラビに含められ絶滅のおそれはほとんどない
16	ウラボシ科	ミヤマウラボシ	<i>Selliguea veitchii</i> (Baker) H. Ohashi et K. Ohashi		II	生息状況が安定しており、絶滅のおそれは低いと判断
17	ラン科	ヒロハトソウ	<i>Platanthera fuscescens</i> (L.) Kraenzl.	II	II	県内分布証拠標本なし
18	キンボウゲ科	レイジンソウ	<i>Aconitum loczyanum</i> Rapaics		II	アズマレイジンソウ（準絶滅危惧）に含めて記載
19	キンボウゲ科	タカネトリカブト	<i>Aconitum zigzag</i> H. Lév. et Vaniot subsp. <i>zigzag</i>	II	II	生息状況が安定しており、絶滅のおそれは低いと判断
20	キンボウゲ科	エンコウソウ	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>enkoso</i> H.Hara		II	コバノリュウキンカ（絶滅危惧II類）に含めて記載
21	スグリ科	トガスグリ	<i>Ribes sachalinense</i> (F. Schmidt) Nakai		II	生息状況が安定しており、絶滅のおそれは低いと判断
22	オオバコ科	ハクサンオオバコ	<i>Plantago hakusanensis</i> Koidz.		II	生息状況が安定しており、絶滅のおそれは低いと判断
23	キク科	アキノハハコグサ	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i> (DC.) Hilliard et B. L. Burtt	I B	II	県内分布証拠標本なし
24	ハナヤスリ科	ヤマハナワラビ	<i>Botrychium multifidum</i> (S.G.Gmel.) Rupr.		準	エゾノハナワラビに含められ絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
25	メシダ科	タカネサトメシダ	<i>Athyrium pinetorum</i> Tagawa		準	生息状況が安定しており、絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
26	オシダ科	ミヤコヤブソテツ	<i>Cyrtomium yamamotoi</i> Tagawa		準	生息状況が安定しており、絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
27	ラン科	コケイラン	<i>Oreorchis patens</i> (Lindl.) Lindl.		準	産地が多く確認され、絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
28	イネ科	セイタカヨシ	<i>Phragmites karka</i> (Retz.) Trin. ex Steud.		準	個体数が多く確認され、絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
29	イネ科	オオアブラススキ	<i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.		準	個体数が多く確認され、絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
30	アブラナ科	イブキハタザオ	<i>Arabisopsis halleri</i> (L.) O'Kane et Al-Shehbaz subsp. <i>gemmifera</i> (Matsum.) O'Kane et Al-Shehbaz var. <i>senanensis</i> (Franch. et Sav.) Yonek. f. <i>alpicola</i> (H.Hara) Yonek.		準	ハクサンハタザオに含められ絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
31	タデ科	ウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> (L.) H. Gross var. <i>sibirica</i> (Meisn.) Miyabe		準	アキノウナギツカミに含められ絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
32	スイカズラ科	オミナエシ	<i>Patrinia triloba</i> (Miq.) Miq.		準	産地が多く確認され、絶滅危惧に移行のおそれは低いと判断
33	サンショウモ科	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i> (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai	I B	不足	県内分布証拠標本なし。県内に分布するのは類似の外來雑種。
34	チャセンシダ科	コウザキシダ	<i>Asplenium ritoense</i> Hayata		不足	県内分布証拠標本等なし
35	ヒルムシロ科	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i> Regel et Maack	II	不足	県内分布証拠標本等なし
36	ラン科	クモイジガバチ	<i>Liparis truncata</i> F.Maek. ex T.Hashim.	I A	不足	県内分布証拠標本等なし
37	カヤツリグサ科	チャシバサゲ	<i>Carex caryophyllea</i> Latour. var. <i>microtricha</i> (Franch.) Kük.		不足	県内分布証拠標本等なし
38	キンボウゲ科	シキンカラマツ	<i>Thalictrum rochebruneanum</i> Franch. et Sav.		不足	県内分布証拠標本等なし
39	バラ科	ヤマナシ	<i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm. f.) Nakai var. <i>culta</i> (Makino) Nakai		不足	県内分布個体は移入起源と判断
40	バラ科	イワテヤマナシ (ミチノクナシ)	<i>Pyrus ussuriensis</i> Maxim. var. <i>ussuriensis</i>	I B	不足	県内分布個体は移入起源と判断
41	ブナ科	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i> Carruth.		不足	県内分布個体は移入起源と判断
42	ブナ科	カシワ	<i>Quercus dentata</i> Thunb.		不足	県内分布個体は移入起源と判断
43	カバノキ科	チョウセンミネバリ	<i>Betula costata</i> Trautv.		不足	産地・個体数が多く確認され、絶滅のおそれは低いと判断
44	タデ科	ヌマダイオウ	<i>Rumex aquaticus</i> L.		不足	県内分布証拠標本等なし
45	キク科	カワラニンジン	<i>Artemisia carvifolia</i> Buch.-Ham.		不足	県内分布個体は移入起源と判断

備考

注) 各カテゴリーでの配列・学名は原則岐阜県植物誌の配列・学名に準じた。  
 岐阜県植物誌の学名・配列 学名：シダ植物は海老原 (2016, 2017) の「日本産シダ植物標準図鑑I, II」(学研プラス)、大部分の種子植物は米倉・梶田 (2003~2017. BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>) に従ったが、一部は執筆者の考えに従った。配列：科の配列は、シダ植物は海老原 (2016, 2017) の「日本産シダ植物標準図鑑I, II」(学研プラス)、種子植物はAPG IIIに準拠した米倉 (2013) の「維管束植物分類表」(北隆館) に従い、属・種の配列は学名のアルファベット順とした。  
 国リストのカテゴリーは令和8年2月末時点。